

## 福山市におけるハクビシンの写真による確認記録

増永 功<sup>1)\*</sup>・小島 雅史<sup>1)</sup>・中西 毅<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 株式会社荒谷建設コンサルタント・<sup>2)</sup> 一般財団法人広島県環境保健協会

### The Record of Masked Palm Civet *Paguma larvata* by Sensor Photography in Fukuyama City

Isao MASUNAGA<sup>\*</sup>・Masashi KOBATAKE・Tsuyoshi NAKANISHI

#### はじめに

ハクビシン *Paguma larvata* の原産地は東南アジアで、パキスタン北部からインドシナ半島を経て中国南部までと、台湾、ボルネオ島、スマトラ島などであり（自然環境研究センター，2019）、日本では国外由来の外来種となる。

国内での分布については、本州、四国に生息し、北海道の奥尻島でも生息が確認され、近年分布域を拡大し、連続的な分布を示すようになったことが報告されている（自然環境研究センター，2019）。

広島県内でのハクビシンの分布記録については、河川水辺の国勢調査において、小瀬川の中市堰上流、江の川流域の馬洗川（畠敷地区）で足跡による確認記録がある（「河川環境情報システム（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）」[http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl\\_87\\_index.html](http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_87_index.html), 2022年2月1日確認）。その他では、環境庁自然保護局（1993）、環境省自然環境局生物多様性センター（2002）に、山口県、島根県との県境のメッシュに確認記録がある。

なお、上野ほか（2000）の広島県の哺乳類に本種は掲載されておらず、当時はまだ分布していなかったと考えられる。

#### 調査方法

センサーカメラを福山市駅家町今岡の山道（図版 1-A）に設置し、調査を行った。設置箇所は哺乳類全般が確認しやすいよう見通しの良い場所を選定し、誘引餌として穀物等を使用した。設置期間は、2021年5月12日～6月2日、同年10月4～6日である。

#### 調査結果

著者らは、2021年5月13日午前7時に福山市駅家町今岡の山道（図版 1-A）にて、ハクビシンの写真と動画を撮影した（図版 1-B）。撮影されたハクビシンは後ろ姿であったが、広島市安佐動物公園の畑瀬 淳氏らが、ハクビシンと同定した。

個体写真による県内でのハクビシンの初確認であり、広島県内にハクビシンが確実に分布することを示すものである。

## 考察

県東部では、環境省自然環境局生物多様性センター（2018）による既存情報整理や市区町村アンケート等では分布情報が得られているが、識者による判断の有無が不確かであり、確実な分布情報ではなかった。しかし、福山市でハクビシンが確認されたことから、小瀬川流域、江の川流域のみならず、県の東側でもハクビシンが広島県内に侵入していることが明らかとなった。

本調査でハクビシンが撮影されたのは5月13日の1回だけであり、設置期間を踏まえると現在の個体数は少ないと推測されるものの、今後の県内での生息域拡大と個体数増加が危惧される。

## 謝辞

ハクビシンの同定をしていただいた畑瀬 淳氏をはじめとする広島市安佐動物公園の皆様がこの場を借りて感謝の意を表す。また、執筆にあたって助言を頂いた認定NPO法人西中国山地自然史研究会の上野 吉雄氏にお礼を申し上げます。

## 引用文献

- 上野 吉雄・内藤 順一・足利 和英・大畑 純二・岡村 博美・菊間 馨・桑原 一司・田公和男・茶村 真一郎・畑矢 健治・畑瀬 淳（2000）広島県の哺乳類. 中国新聞社, 広島
- 環境省自然環境局生物多様性センター（2002）生物多様性調査動物分布調査報告書（哺乳類）, 112.
- 環境省自然環境局生物多様性センター（2018）平成29年度 要注意鳥獣（クマ等）生息分布調査 調査報告書 アライグマ・ハクビシン・ヌートリア, 22.
- 環境庁自然保護局（1993）第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（哺乳類）, 132.
- 自然環境研究センター（2019）最新 日本の外来生物. 平凡社, 東京

図版 1



A：ハクビシンの確認環境（センサーカメラの設置状況）2021年5月12日

B：撮影したハクビシン 2021年5月13日